

なるほど
インフォメーション ... 134

安全・安心マインド 134

高速道路の走り方 134

雨の日もクリアな視界で 135

夏の避暑対策 136

冬のカーライフ 137

シーズン前の冬じたく 137

お出かけまえに 139

雪道走行 140

冬の駐車ノウハウ 142

ディーゼル車の冬の心得 143

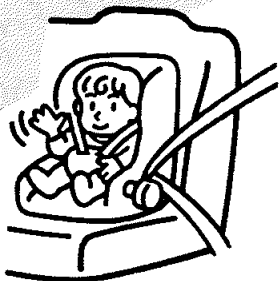
な

るほどインフォメーション

安全・安心マインド

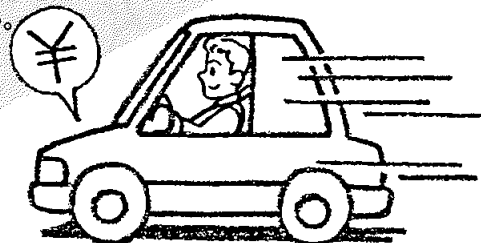
チャイルドシート、ジュニアシートが安心です。

予測できない子供の動き。専用シートにすわらせると安心です。



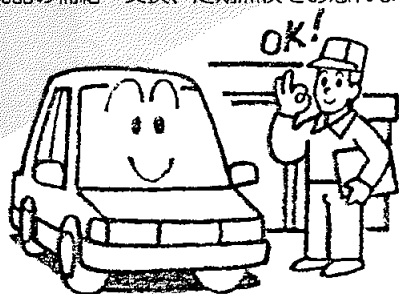
安全運転、結局お得！

不必要な高速運転は燃料のムダ使い。車間距離をゆったりとって、安全運転に心がけましょう。



キチンと整備、快適ドライブ

手入れ次第で故障も未然に防げるもの。消耗品の補給・交換、定期点検をお忘れなく。



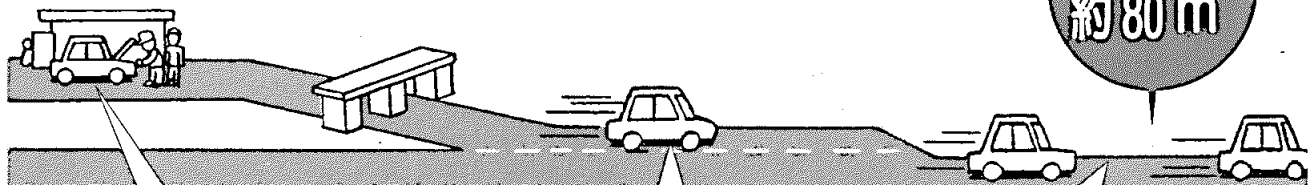
バッテリーだって疲れます。

雨天の夜の渋滞。エアコン、オーディオのフル回転でバッテリーもバテぎみ。

こまめな節電はもちろんのこと、万一のためにブースターケーブルを車に積んでおくとも便利です。



高速道路の走り方



80 km/hで
約80m

燃料は満タンに。

高速道路にはいる前に、タイヤの空気圧、冷却水、オイルの量もチェックしましょう。

十分な加速で本線合流。



方向指示は早めに出して、十分加速し、安全確認後、タイミングを狙ってゆるやかに合流します。スピードに目が慣れるまで最大限の心くばりを。

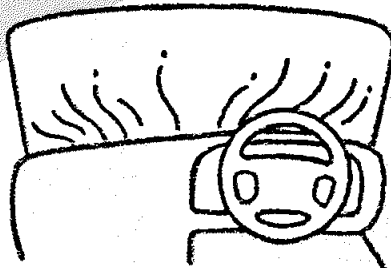
車間距離は十分に。

スピードと同じだけの距離(m)の車間距離が必要です。80 km/hで約80m。20m間隔のレーンマークが4本、前車との間に見えるように。

雨の日もクリアな視界で

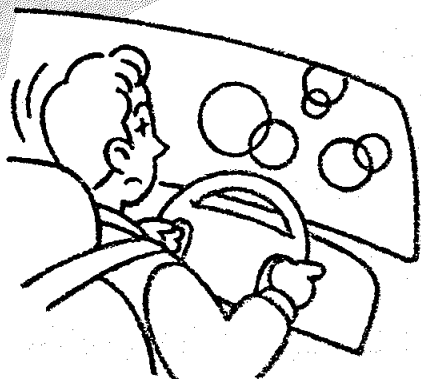
フロントガラスが曇る。

エアコンで除湿しましょう。吹き出し口を  か  にし、内外気切り替えスイッチを外気導入にします。冬でも除湿としてエアコンを活用しましょう。



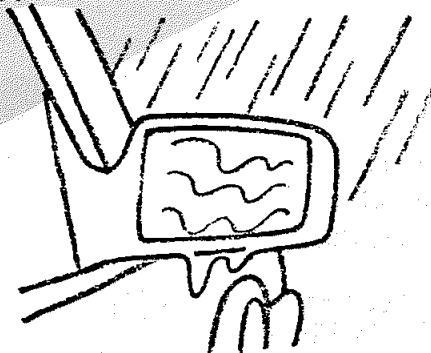
フロントガラスが油膜でキラキラ。

雨の夜は対向車のライトが乱反射。
ガラスクリーナーを使ってガラスの表面だけでなくワイパーゴムもきれいにしましょう。



ミラーが水滴で見づらい。

ガラスコートをぬってあげば、雨水やはね水をはじきます。



SA
50 kmごと

PA
15 kmごと

追い越しが終われば 走行車線へ。

追い越し車線は追い越し専用です。
追い越した車がインナーミラーに全部写ってからすみやかに走行車線へもどります。

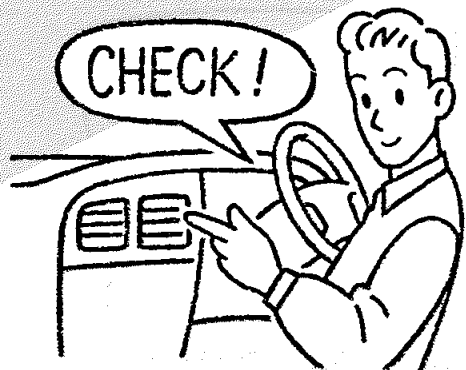
無理せず休もう。

疲れたり眠くなったら、SA(サービスエリア)、PA(パーキングエリア)でひと休み。1時間走ったら10分ぐらい、3時間走ったら30～60分ぐらいを目安に。SAは50km、PAは15kmごとにあります。

夏の避暑対策

シーズン前にエアコンチェック。

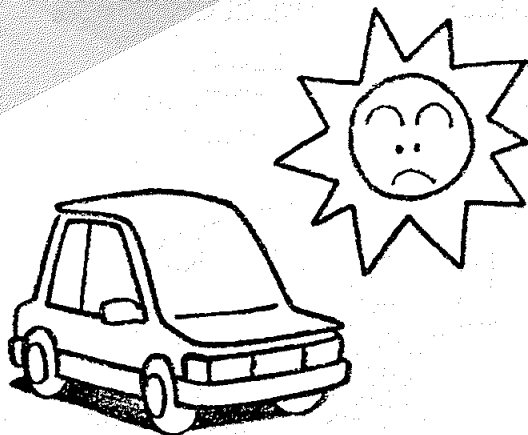
暑くなる前に点検・補充をしておきましょう。



ボディカバーでサンシャワーカット。

炎天下の駐車では室内温度は予想外。

ボディに覆いをかけたり、ハンドルやシートにタオルをかけて、室内温度の上昇をおさえましょう。



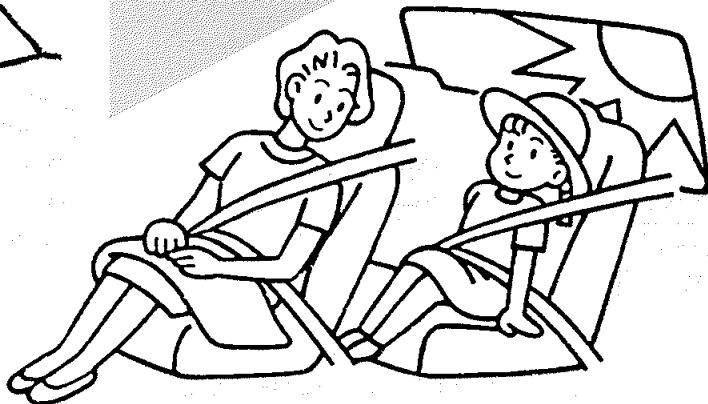
熱気を逃してエアコンスタート。

車にもどりいきなりエアコンをかけるのは考えもの。まず窓を開けて熱気を逃してからエアコンを効かせるのが効果的です。



とにかくエアコンは冷やしすぎ。

冷房に弱いかたはひざ掛けを、リヤシートにすわるかたには帽子を用意するのもひとつの方法です。エアコンの冷やしすぎには気をつけましょう。



冬のカーライフ

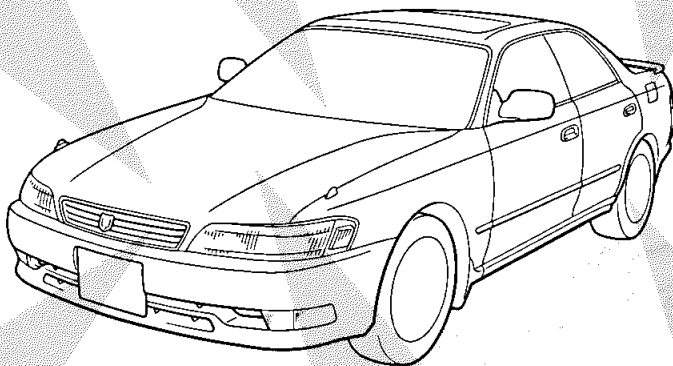
シーズン前の冬じたく

ウォッシャー液の
濃度 50% 以上

→データ1

- 凍結防止用ワイパーの装着
- ワイパー切り替え★
(切り替え方法は次ページ参照)

水抜き剤などで
燃料タンクの水分排出



冷却水の濃度

→トヨタ純正ロングライフクーラント 50%

外気温に応じた
エンジンオイル

→データ2

タイヤチェーンの準備
冬用タイヤの装着

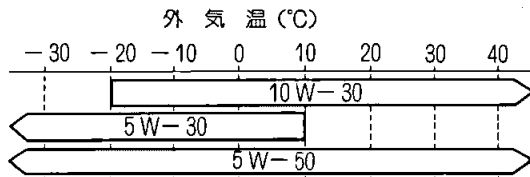
4輪とも指定サイズの同一銘柄
のものに交換

データ 1

使用地域・季節	希釈割合	凍結温度
通常	原液 1 に水 2	-10°C
寒冷地の冬期	原液 1 に水 1	-20°C
極寒冷地の冬期	原液のまま	-50°C 以下

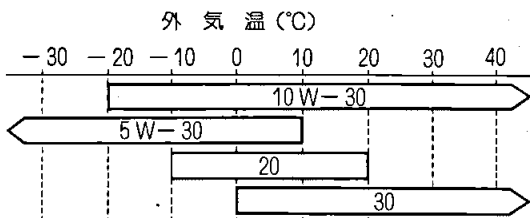
データ 2

ガソリン車



● 5W-30 は寒冷時しか使用できません。

ディーゼル車



● 5W-30 は寒冷時しか使用できません。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。

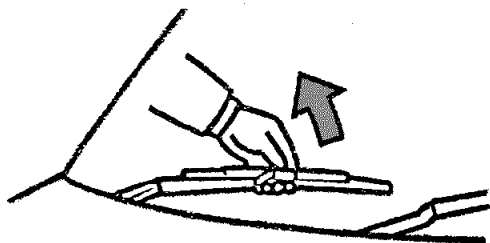
ワイパーの切り替え方

寒冷地仕様車、スノーバージョン

フロントガラスに多量の雪が積もった場合、ワイパーが上がらなくなりワイパーモーターを損傷することがあります。

次の手順でフルコンシールド式からセミコンシールド式に切り替えてください。

1. ワイパーアームのフック部を持ち、ガラス面にそって引き上げます。



注意

ブレードのみを持って引き上げないでください。ブレードが変形するおそれがあります。必ずフック部を持ってください。

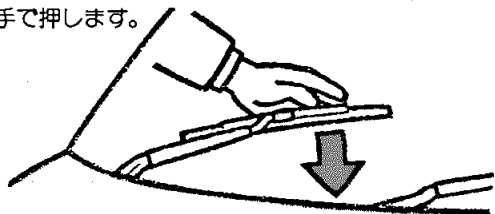


アドバイス

フルコンシールドの状態でワイパー作動中、ワイパー停止位置に雪がたまりと自動的にフルコンシールドからセミコンシールドに切り替わる構造になっていますが雪のたまり方によっては切り替わらずにコツン、コツンと音がする場合があります。

音がしたらセミコンシールド式に切り替えて雪を取り除いてください。

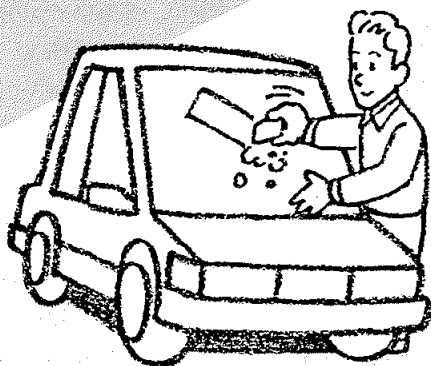
フルコンシールド式にもどすときは、フック上部を手で押します。



お出かけまえに

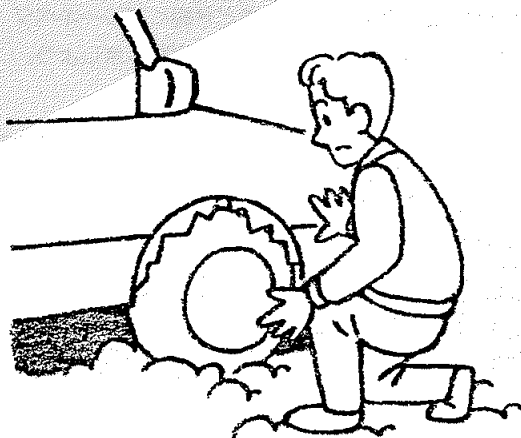
ガラスについての霜取り。

プラスチックの板を使うとガラスに傷をつけずに素早く落とすことができます。



足まわりの着氷。

車の下をのぞいて、足まわりに付着した氷塊を部品に傷をつけないように取り除いてください。

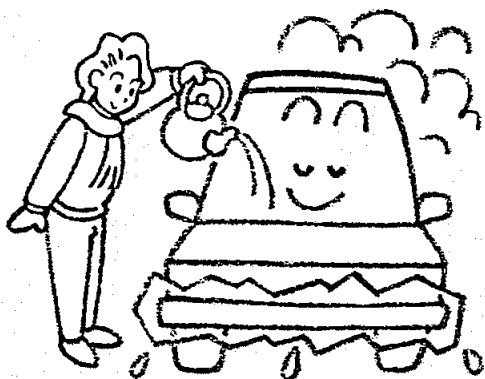


車が凍ったら。

ワイパー、電動リモコンミラー、パワーウィンドウなどが凍って動かなくなることもあります。

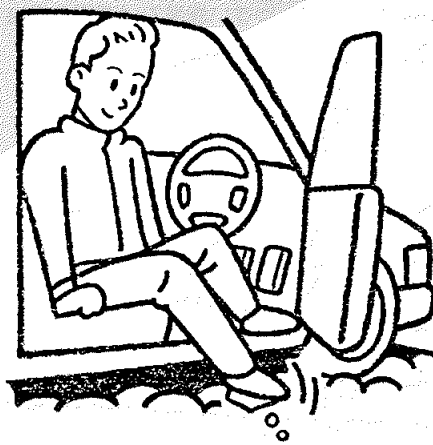
無理に動かそうとしてスイッチを押し続けたりすると、装置をいためたり、バッテリーあがりをおこすおそれがあります。

またドアが凍結したときは無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。そんなときはお湯をかけて氷を溶かしてください。なお、すぐに水分を十分ふき取ってください。



ペダル操作時のすべり防止。

乗車時、靴についた雪をよく落としてください。

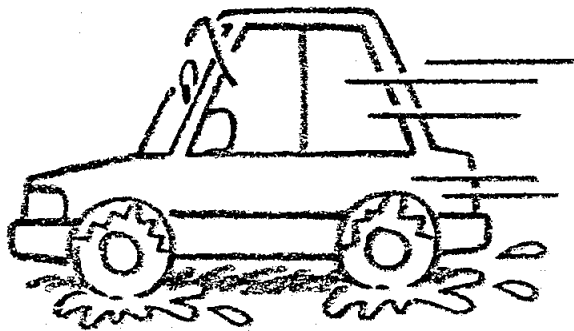


雪道走行

着氷のいたずら。

走行中にはね上げた雪や水は、車に付着して氷になります。フェンダー裏側に付着するとハンドル操作に影響しますのでときどき確認し、大きくなる前に取り除きましょう。

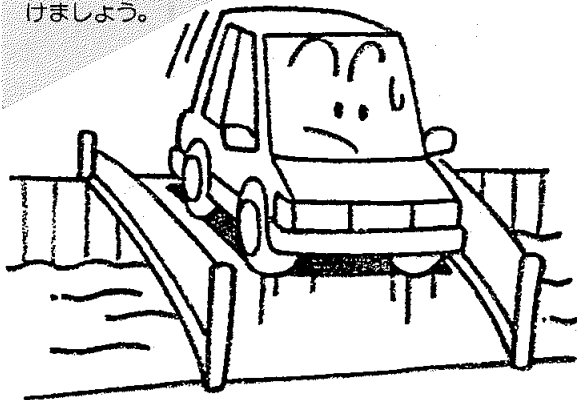
ブレーキ装置に付着するとブレーキの効きが悪くなる場合がありますので、ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認しましょう。



スリップにご用心。

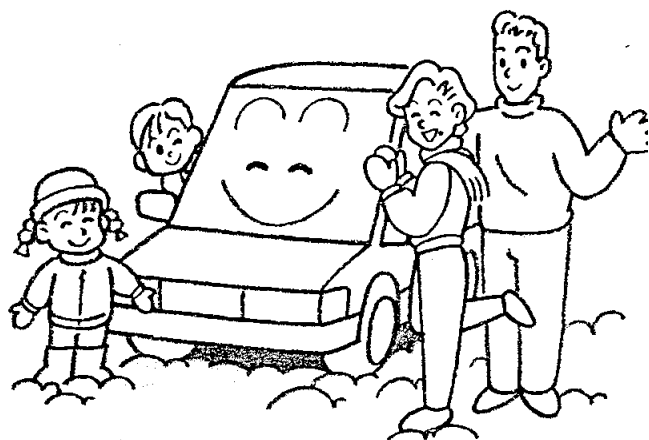
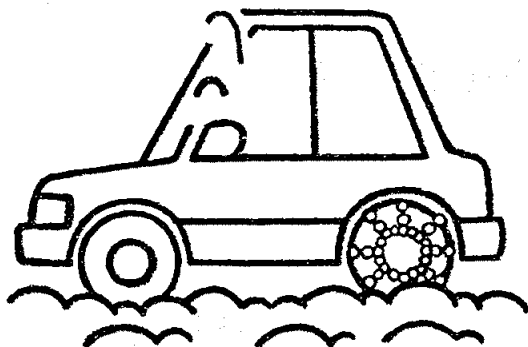
ゆっくりスタート、ひかえめな速度で走行中も“急”のつく動作は厳禁です。

橋の上や日陰など凍結しやすい場所では減速を心掛けましょう。



タイヤチェーン、冬用タイヤの装着

- 積雪路、凍結路では早めにタイヤチェーンまたは冬用タイヤを装着してください。冬用タイヤの装着サイズについては販売店にご相談ください。
- ツアラーV、ツアラーSに装着されているハイグリップタイヤは、一般走行時でのグリップ性能を重視して作られています。積雪路、凍結路では一般のタイヤに比べグリップ性能がより低下します。積雪路、凍結路では必ず冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着し、速度を控えめにして運転してください。なお、タイヤチェーンを後輪に装着しても前輪のグリップ性能は低いため、より慎重に運転してください。



タイヤチェーンの取り付け方

- タイヤチェーンは必ず後2輪に取りつけます。
- タイヤチェーンはタイヤサイズにあったものを使用してください。

195/65 R 15 91 H、205/60 R 15 91 H、205/55 R 16 89 V、225/50 R 16 92 V タイヤを装着されているかたは、必ずマークII専用のトヨタ純正品を使用してください。

トヨタ純正品以外のチェーンを使用すると車体側に当たり走行に悪影響をおよぼします。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

↑ アドバイス

- スチールホイールはホイールキャップをはずしてから、タイヤチェーンを取りつけてください。
- アルミホイールにタイヤチェーンを取りつけると、ホイールに傷がつくおそれがあります。

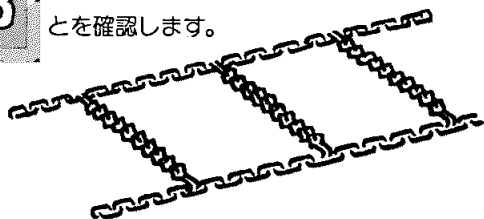
チェーンを取りつけるまえに

- ①安全に作業できる平らな場所に移動します。
 - パーキングブレーキをかけエンジンを止めます。
 - 非常点滅灯を点滅させ、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。
- ②輪止め、ジャッキ、ジャッキハンドル、タイヤチェーンを取り出します。

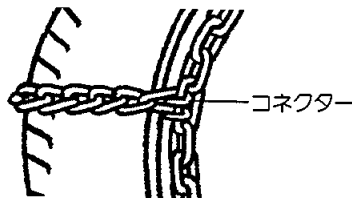
1 チェーンを取りつける後輪と対角の位置にある前輪の前側に輪止めをします。

2 チェーンを取りつける後輪をジャッキアップします。
→ 149ページ参照

3 チェーンを路面にひろげて、ねじれがないことを確認します。

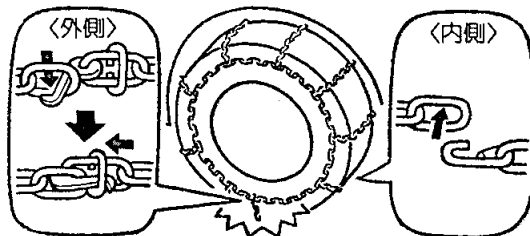


4 コネクターの折り曲げが外側を向くようにタイヤにかぶせます。



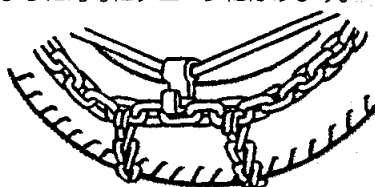
5 チェーンの両端をいっぱいにつ張り、内側から先に連結します。

- チェーンが内側、外側のどちらか一方に片寄っていないか確かめ、外側のチェーンもいっぱいにつ張り連結します。



6 余ったチェーンは車体にあたるのを防ぐため針金で固定します。

7 チェーンバンドはクリップの爪が外側を向くように均等にチェーンにかけます。



8 ジャッキをおろし、輪止めをはずします。

9 2～3分走行し、チェーンのゆるみ、はずれがないか確認します。

↑ アドバイス

チェーンを取りはずすときは外側からはずしてください。

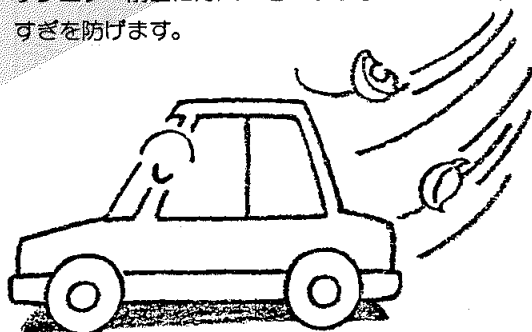
⚠ 注意

30 km/h 以下で走行してください。

冬の駐車ノウハウ

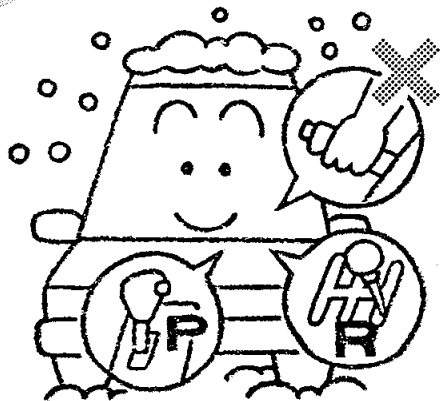
風下に向けて冷え込み対策。

風にあたる部分は、予想以上に低温となります。バッテリーあがりを防ぐためにもボンネット側を風下に向けて駐車しましょう。ラジエター前面にカバーをつけるとエンジンの冷えすぎを防げます。



パーキングブレーキはかけちゃダメ。

寒冷時はパーキングブレーキをかけるとブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。チェンジレバーをオートマチック車はP、マニュアル車はDまたはRにいれておきましょう。

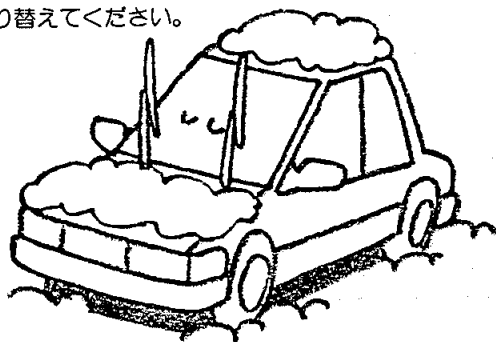


ワイパーアームは立てて安心。

寒冷地仕様車、スノーバージョンは、ワイパーを立てることができます。

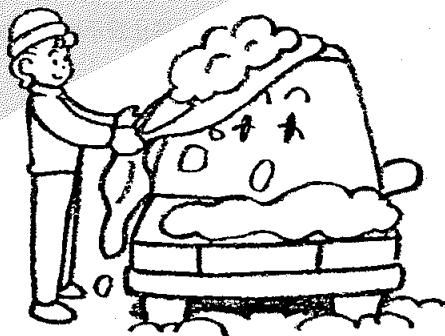
降雪時は寒さでワイパーゴムがガラスに凍りついてしまいますので、ワイパーアームを立てて駐車すると便利です。

ワイパーアームを立てるときは必ずセミコン式に切り替えてください。



ウインドウマスクは強い味方。

早朝のお出かけでも、フロントガラスの霜を取るわずらわしさがありません。



ディーゼル車の冬の心得

ディーゼル車の燃料

軽油は外気温が -10°C 以下になると凍結し、燃料配管の詰まりなどの故障の原因となります。

寒冷地へ行くときは、現地へ着くまでに残量を半分（燃料計目盛りの $1/2$ 以下）にしておき、現地に着いたら下表にしたがってできるだけ早く寒冷地用燃料を補給してください。



注意

フェリーを利用する場合は、寒冷地に着いてすぐ寒冷地用燃料を補給できるよう、あらかじめ燃料を半分以下にしておいてください。寒冷地用燃料を半分以上補給しないと燃料が凍結し、燃料配管などが詰まるおそれがあります。

使用限界温度	使用燃料		
	JIS2号 軽油	JIS3号 軽油	JIS特3号 軽油
-10°C	○	—	—
※ -14.5°C	○	○	—
-19°C	—	○	—
※ -22°C	—	○	○
-25°C	—	—	○

※は、それぞれの燃料を同じ割合に混合した場合を示します。

